

修了生から新たに講師の先生が誕生!

2015年度より「CFP認定教育プログラム」ご担当の先生方にお話を伺いました。

取材記事・撮影/小松 智子 立花 和将

— 先生として教壇に立った感想をお聞かせください。 —

山崎：最初に講師の依頼があった時は「まさか私が!」という気持ちでしたが、保険に関する授業ということで、実務において自分が培った知識を伝えられるということに使命感を覚えました。授業では、3時間×7回という短い期間の中で、必要な情報をいかに伝えるかという点に苦しみました。また、履修者がどういった内容に興味を感じるのかを授業の中で感じ取りフィードバックを繰り返すことで、試行錯誤しながら授業を組み立てました。

荻野：数年ぶりの不動産ブームで興味を持っている方が多いことに驚きました。確かにマイナス金利などで投資家がREITなどをポートフォリオに組み込むのは理解できますし、金融緩和の影響で日本の不動産が注目されるのも分かります。ただ、私としては不動産でビジネスを行う者は積極的にリスクをとる者ではなく、リスクを管理しながら機会を活かせる者だと思っています。そのため、履修者には絶対に不動産ビジネスで失敗をして欲しくないという気持ちで、実際の教壇に立った時に生まれました。

飯塚：RBSを修了してから大分時間が経過していることから立教のキャンパスを懐かしく感じると共に、現役生のキラキラと輝いた目を見て、自分が学生だった当時を思い出しました。授業においては、取り扱う内容の特性上、履修者が当事者として題材を身近に感じられるかどうかで、取り組み方が変わってくるということを実感しました。

— RBSでの学びを実践でどのように活かしていますか? —

荻野：統計に関する知識が実務においても役に立っていると感じます。私は資産評価政策学会でRBSの修士論文を発表しました。研究テーマは不動産の適正賃料についての考察だったのですが、この論文のおかげで自分なりのビジネス上の目安ができ、また実際に論文の結果を使ってお客様の不動産の価値を大幅に向上させることにも成功しました。

山崎：様々な場面で問題意識を持てるようになったと感じます。論文執筆の中で仮説と検証を繰り返す思考パターンが身に付いたことで、物事に対して観念に止まるのではなく、疑問を持ち自分なりに考えるようになりました。また、私の実務における顧客には中小企業の経営者が多いのですが、今までは販売商品の話が主体となっていたものが、経営に関する話題も取り込んだ対話や提案ができるようになったことは大きな収穫だと感じています。

飯塚：税理士として業務を行う中で、かつては会社の決算を後追いで捉える



左から飯塚正裕先生、荻野祐太郎先生、山崎亮先生

面が強かったのですが、MBAを取得してからは、マーケティングなど一見業務には直結しない分野の知識を得たことで、顧客との間で将来に関する要素を含めた経営戦略的な話題が増えたと実感しています。

— RBS 現役生へのメッセージをお願いします。 —

飯塚：皆さんはRBSで学ぶことで自分自身を磨いているのだと思います。それは一振りの名刀のようなもので、手入れを怠れば錆びついてしまいます。折角学んだことを風化させないように、修了した後も学ぶことを続けていって欲しいと思います。また、RBSは人との繋がりを築くとても良い場です。FBなどを通じて当時の仲間との交流は今でも続いています。長く付き合っている仲間は是非作ってください。

山崎：同級生同士の「ヨコ」の繋がりと合わせて、先輩や後輩を含めた「タテ」の繋がりを築いていってください。修了後は、ビジネスデザイン立教会などの校友会が、ビジネスマッチングを含めた情報交換ができる貴重なネットワークになるはずですが、また、現役生はキャンパスライフを精一杯楽しんでください。2年間はあつという間です。学びと遊びの相乗効果が発揮されることを祈っています。

荻野：不動産ビジネスの場合、価格が高く、まれにしか取引しないことから、保険や相続と同じく情報の非対称性が高いビジネスで、経験がものをいいます。戦略も重要ですが取引相手の気持ちがわかるかということが大切だと思います。私の授業では不動産について初めての人でもわかるように、事例をまじえて講義していきたいと思っています。

PROFILE

飯塚 正裕先生

RBS8期生。担当授業は「相続・事業承継設計」。税理士、行政書士。飯塚税理士・行政書士事務所、創業・制度融資支援センター代表。創業時の融資や補助金のサポートに注力。創業から事業の成長、次世代への承継まで視野にいれクライアントの発展のため日々活動している。立教大学大学院修士(経済学、経営管理学)。

荻野 祐太郎先生

RBS11期生。担当授業は「不動産運用設計」。協和建設工務株式会社代表取締役。不動産のオフバランス化を希望する上場企業等と相続対策を希望する土地所有者双方にメリットの有るスキームを提案し、不動産取引及び設計、建設を行う。近年ではサービス付き高齢者向け住宅等の福祉施設を手がける。また、プロパティマネジメントにも注力し、自社開発した賃貸集合住宅の建設及び管理を行う。

山崎 亮先生

RBS11期生。担当授業は「リスクと保険」。専門は、生命保険のコンサルティング、相続・事業承継対策、退職金対策・リスクマネジメントのための生命保険活用。専門商社、大手化学メーカーを経て、03年よりブルデンシャル生命保険にてライフプランナー。講演実績、第一東京弁護士会、日本公認会計士協会経営研究調査会、会計事務所、経営者セミナー多数。生命保険協会認定FP、相続診断士、MDRT(Million Dollar Round Table)終身会員。

編集後記	今回は14期生のみで編集を行う唯一の機会でした。素晴らしい仲間と一緒に作業できたことに感謝しています。(立花 和将)	この一年を振り返ると新たな知識の体得や出会いが多くありました。次の一年は目標が定まったので邁進していきます。(森下 開理)	春は卒業・旅立ち等、柔らかな心がチクとする季節です。でも、始まりの時期でもあります。意志あるところに道は開く、前進あるのみ!(土手内 真奈美)
	あつという間に一年終わってしまいました。残り半分、心残りを残さないように全力で学生生活を楽しみたいと思います。(大山 裕司)	メンバーみんなで力を合わせた会心の出来になっています。次号もご期待下さい!(鈴木 剛)	RBSへ入学後、素敵な出会いに恵まれています。今回の修了生インタビューでも沢山の刺激を受けました。どうもありがとうございました!(小松 智子)
	学び舎の表情が季節が変わる。眺めはじめるときりがない。美しい立教とかかわりをもてた幸せを感じています。(内田 孝嗣)	あつという間の1年間。まだまだ沢山学んで残りの1年を有意義な時間にしたいです。(山本 譲士)	M1に対する記憶は時間のアルバムに閉められました。過去の良いことでも悪いことでも気にせず、新しい一年に頑張りますよ。(張 閃閃)

お詫びと訂正：『BizCom50号』において誤りがありました。お詫びして次のように訂正いたします。1頁目 CONTENTS「岩田松尾氏」→「岩田松雄氏」